

J-21

川湊のまちを紡ぐ Spinning the city of Kawaminato

佐藤信治¹, ○笹川雄基²
Shinji Sato¹, Yuki Sasagawa²

Niigata Port celebrates the 150th anniversary of its opening on January 1, 2019. Niigata flourished as an river in Minato River and Agano river flowing through the Echigo Plain for a long time, and supplies are now distributed in Niigata City area, Niigata Minato has played a role as a connecting point connecting shipping and shipping.

During the Edo era, as a port of call for the Kitamaritai ship, bustling people, goods and culture exchanged with Niigata as base, prospering as the largest Minatomachi on the Japan Sea side and after the opening, the function as a modern harbor from Niigata Minato to Niigata port It was renovated and it became the only core international port of the Japan Sea side in 1995. It has been developed as a representative port of the Sea of Japan side by being positioned as an international base harbor which will be the base of the international marine transportation network in 2011.

In this proposal, we will spin the 150th anniversary of Niigata port opening from the past to the future in order to further develop Niigata including Niigata Port, succeed and develop the history and culture that Minatomom brought up to foster regional pride (Civic Pride) We will promote improvement of the location and town development together with the expansion of the interchange population from home and abroad and the revitalization of the region.

1. はじめに

新潟港は、2019年1月1日に開港150周年を迎える。新潟は、古くより越後平野を流れる信濃川や阿賀野川の川湊として栄え、現在では川と海の結節点としての役割を果たしている。

江戸時代には、北前船の寄港地としてにぎわい、人・物・文化が新潟を拠点に交流し、日本海側最大の湊町として繁栄した。開港以後、新潟湊から新潟港へと近代港湾としての機能が整備された。2011年には、国際海上輸送網の拠点となる国際拠点港湾に位置づけられるなど日本海側を代表する港として発展してきた。

しかし現在、新潟港への関心を高めていくなかで2点の問題点が挙げられる。

- 1) 新潟港が周遊スポットとして認知度が低いこと。
- 2) 新潟港エリアへのアクセスが悪いこと。

上記より本提案では、新潟港の観光地化を目指し、国内外からの交流人口の拡大や地域の活性化につなげていく拠点を設計する。

新潟港がさらに発展していくため新潟開港150周年を過去から未来へと紡ぎ、湊町の育んだ歴史や文化を継承・発展させ地域の誇り(シビックプライド)を醸成する。

2. 新潟市のインバウンド増加推進

開港150周年の記念年度となる2018年度は開港都市・新潟の魅力を全国に伝えるとともに、多くの外国人に新潟に来ていただくインバウンド増加を推進していく。昨年、日本を訪れた外国人は観光庁の調査によると2869万人で、国は東京オリンピック・パラリンピックが開かれる2020年には4千万人にする計画としている。

新潟県に昨年宿泊した外国人は約28万人泊(全国30位)でうち本市での宿泊を推計すると約5万7千人泊となっている。いま主流になっている個人旅行への対応も考える必要があり、国際航空路線やクルーズ船誘致に取り組むと同時に民間企業と連携して新潟へのインバウンド増加を目指している。



Figure 1. Spot tour route

1:日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.
2:日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

一方、新潟市街を訪れる観光客が周遊するスポットは図のようになっており、新潟駅を出発地点として万代シティや古町エリアを行き来するケースが多く、街を循環する交通システムの構築が必要である。

2.1.新潟県におけるインバウンドの現状

新潟県における 2016 年の外国人述べ宿泊者数は、全国（対前年度比 5.9%増）と同水準の増加率（同 5.3%増）を示しており対全国比率において再び低下傾向を示している。

図表2 新潟県の外国人述べ宿泊者数および新潟県対全国比率の推移

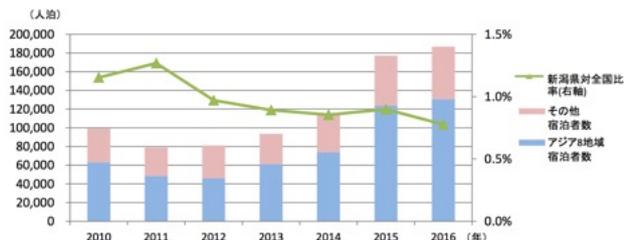


Figure 2. Number of foreigners staying in Niigata prefecture

2015 年度における新潟県の外国人述べ宿泊者数を月別に見ると、通年での宿泊者数は増加傾向にあるものの冬場スキーシーズンの12月から3月の全体に占める割合が高くなっている。

3. 基本方針

2019 年 1 月 1 日、新潟開港 150 周年を迎えるこの記念すべき機会を地域が一体となった取組みとして推し進めていくための観光発信拠点や様々な観光交通を結び循環させる拠点が必要となる。

(1) 港の玄関口の再構築

新潟が港とともに発展してきた歴史を再認識し、港に親しみと愛着を持つための取組みを推進する。

新潟を訪れる観光客をターゲットとしつつ、まずは新潟市民が新潟港のポテンシャルを再認識するための仕組みを構築する。

(2) 港町を中心とした国際的情報発信（観光拠点）

港町の歴史や文化をはじめとする多様な地域資源を活かしたブランドイメージの再構築を図るとともに、これらの魅力を統一コンセプトのもと国内外に向け積極的に発信する観光施設の導入。

(3) 新潟の特性を活かした国際的な物流・交流の強化、都市間連携の構築（市場展開）

日本海側の国際拠点港湾・総合拠点港という機能を活かした対岸諸国をはじめとする諸外国との物流・交流

を強化するとともに、開港 5 都市をはじめ北前船の寄港地や川湊でつながる都市間連携を構築する。

(4) 港湾エリアを中心とした水辺空間の賑わいの創造（水上バス）

港湾エリアを中心とした水辺空間の利活用や、クルーズ船、大規模イベント等の誘致により、新潟の特性を活かした賑わいを創造。

(5) 活気と魅力があふれる「みなと」の創出・拠点性やアクセスの向上（「BRT」路線バス）

新潟港の利用促進に向け、港湾施設の物流・交流の拠点性を高めるための施設整備を推進するとともに、新潟駅間、新潟市内各方面からのアクセス性の向上。

4. 計画地

本計画は、新潟西港万代島付近に計画敷地を選定した。海に面し、主要観光地へのアクセスが良好である。物流拠点として栄えてきた歴史があり、船での来日がしやすく、歴史的にも外国人を受け入れてきた街であり、訪日外国人受け入れの開発環境としてふさわしいと考えられる。



Figure 3. Planned area

5. 導入機能

①佐渡汽船フェリー乗り場②BRT バス乗降拠点③水上バス乗り場④宿泊エリア部門⑤商業エリア部門⑥国際・地域交流部門

上記①から③は新潟を循環させるシステムおよび観光ツアーとしての導入。

④から⑥は拠点に滞留させるための機能。

6. 参考文献

- [1] 日本政策投資銀行：「新潟におけるインバウンド推進に向けて」
- [2] 新潟市：「新潟市観光動向に関する調査」
- [3] 新潟開港 150 周年記念公式 HP:「新潟開港 150 周年記念事業」